

令和元年度  
第2回 大磯町総合教育会議

『地域』と『学校』との関わり方

令和元年11月18日

大磯町 政策総務部 政策課

**令和元年度  
第1回 総合教育会議**

**～前回の振り返り～**

# 『信頼関係による学校づくりの実現』 への取組状況

- ☆ 教員の質・能力を  
向上させる機会の確保
- ☆ 子どもたちと  
向き合う時間の確保

# 教員の質・能力の向上への取組み①

- ① ファーストキャリアステージ教員研修
- ② 教員向けの研修「教育課題研修会」
- ③ 日常授業の改善・充実のための  
幼・小・中相互訪問事業
- ④ 大磯学びづくり推進事業

## 教員の質・能力の向上への取組み②

【更なる改善に向けて…】

- 参観したい授業の**ビデオへの収録**

空いている時間で「自己学習」が可能

- **夏休み等を活用**した研修会への参加

プロとしての自覚、技を磨くことが重要



# 子どもたちと向き合う時間の確保①

- ① スクールソーシャルワーカーの配置
- ② 教育支援員・指導協力員の増員
- ③ 校務支援システムの整備
- ④ 働き方改革への取組み
- ⑤ 町立学校に係る部活動の方針の策定

## 子どもたちと向き合う時間の確保②

### 【更なる改善に向けて…】

- スクールソーシャルワーカーの**常設**
- 教育支援員・指導協力員の**十分な配置**
- 働き方改革への取組み

**夏季休業中の閉庁日の検証**

**教員が意識を持ち、進めることが必要  
(学校長のリーダーシップの下)**

# 『信頼関係による学校づくりの実現』 への取組状況

☆ 教員の質・能力を

向上させる機会の確保

☆ 子どもたちと

向き合う時間の確保

引き続き、取組みを推進していく



# 『地域』と『学校』との関わり方

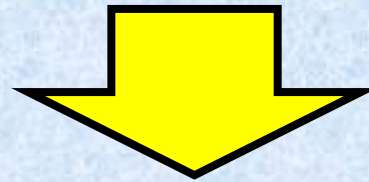
～ コミュニティ・スクールの導入に向けて ～

# 『地域』と『学校』との関わり方

- I コミュニティ・スクール導入の背景と現状
- II コミュニティ・スクールの必要性
- III コミュニティ・スクールの着眼点
- IV コミュニティ・スクールへの期待
- V コミュニティ・スクールの具体的取組み

# I コミュニティ・スクールの背景と現状①

- ・ 少子高齢化 ・ 核家族の増加
- ・ 共働き家庭の増加 ・ 経済的格差



- 人と人との「つながり」の希薄化
- 「いじめ」や「不登校」の原因？

# I コミュニティ・スクールの背景と現状②

- ・ インターネットやSNSなどの  
情報通信手段の普及・多様化



- 生活の利便性の向上
- 相手の「顔」が見えない関係
- 子どもたちの「姿」が見えにくい

## Ⅱ コミュニティ・スクールの必要性

- 地域で子どもたちの「顔」が見える
- 教員の地域への参加
- 学校や家庭、地域の距離を近づける



- 学校を取り巻く課題を解決
- 子どもたちを大切に育てる



## Ⅲ コミュニティ・スクールの着眼点①

- 子どもたちが地域との「橋渡し」に
- 子どもたちの「笑顔」が増える
- 子どもたちに良い効果をもたらすイメージ



子どもたちが「主役」となる取組み

## Ⅲ コミュニティ・スクールの着眼点②

- ・ コミュニティ・スクールが分かりにくい
- ・ 「防災」を突破口に
- ・ 「防犯」や「交通安全」の分野から



- 保護者や地域とのまとまりが生まれる  
⇒ 自然とCSの全体像が見えてくる

## IV コミュニティ・スクールへの期待

- ・「学校」、「家庭」、「地域」の  
3者に良い効果が現れることを期待



- 子どもたちの体験学習・活動
- 大磯町独自の体制づくり
- 子どもたちが「笑顔」になるよう

## V コミュニティ・スクールの具体的な取組み

- AED（自動体外除細動器）の  
授業での**体験学習**
- 様々な場面を想定した**防災訓練**
- 子どもたちが主体の**防災訓練**
- **防災マニュアル**や  
**安否確認システム**の構築・整備

# 第2回総合教育会議のポイント

## 【意見をまとめると…】

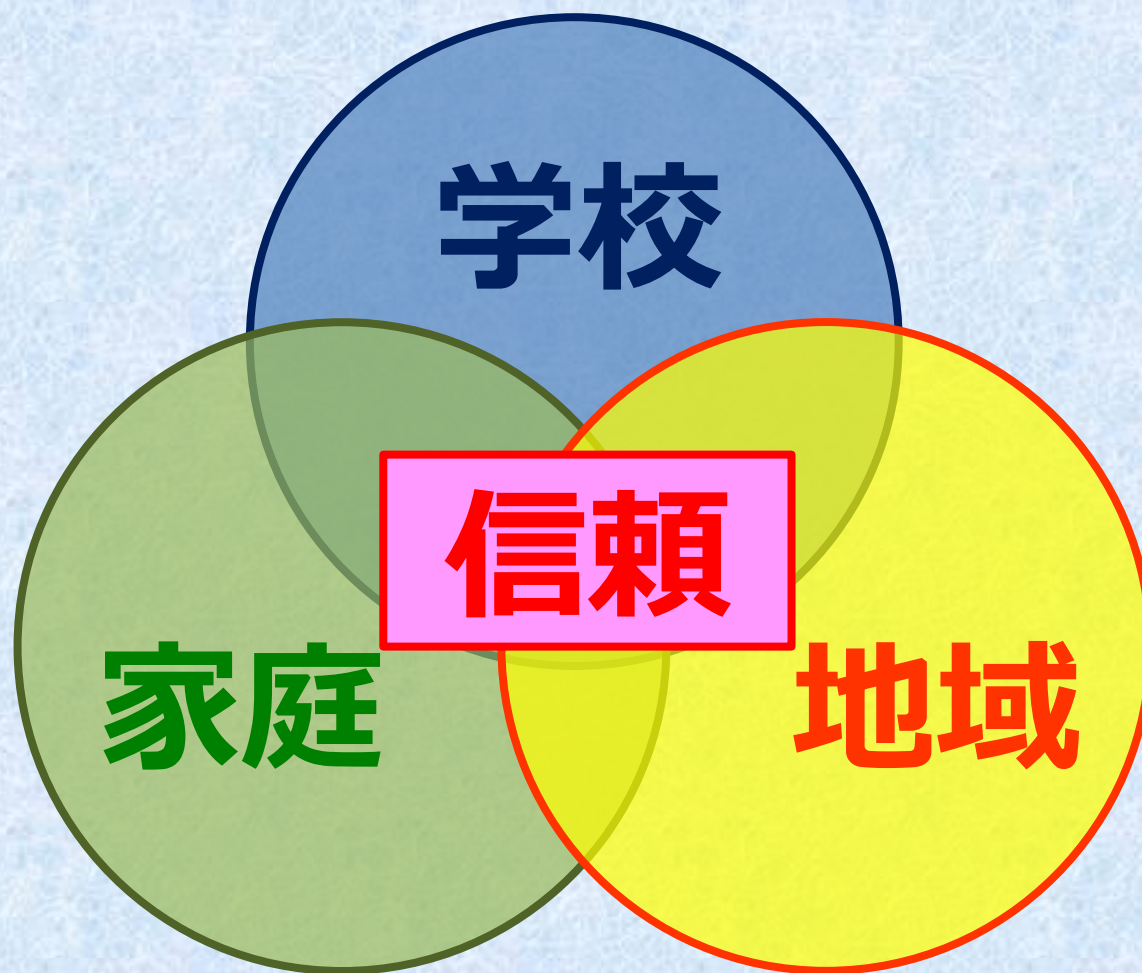
- 子どもが「**主役**」で「**顔**」が見える
- 「**防災**」などといった「**安全・安心**」な
- 様々な「**体験**」や「**経験**」ができる
- 大磯町「**独自**」の



**コミュニティ・スクールでの取組み**



# 『地域』と『学校』との関わり方



# 『地域』と『学校』との関わり方

